

## 〔雑 報〕

## ○第42回東京女子医科大学学会総会

日時 昭和51年9月25日(土) 8:00~17:00

会場 東京女子医科大学本部講堂

暑からず寒からず、好天に恵まれ、定刻午前8時に、太田八重子幹事の開会の辞に始まり、一般演題39題のうち、午前中に32題、午後7題で1題の欠演もなかつたし、出席者も例年より多かつた。午後総会において、吉岡博人会長の挨拶、佐藤イクヨ幹事の庶務会計報告があり、なお諸物価騰貴のため、会費改正の件を語り、従来の年会費4,000円を5,000円に改め、昭和52年度より実施する事に満場の賛成を得、可決した。

特別講演は心研所長広沢弘七郎教授の「心疾患の自然歴」、シンポジウムは織畑秀夫教授司会の下に「脳卒中の診断と治療の進歩」について5人のエキスパートにより分担され、外部からの質問も可なりあつて、一般会員を啓発すること多大と思われ、みのり多き催しであつた。定刻を過ぎて平山幹事の閉会の辞で6時頃盛會裡に第42回総会を閉じた。

(総会記事の詳細は第47巻第2号に総会号としてまとめて掲載する)。

## ○幹事会

日時 昭和51年10月6日(水) 午後3時より

場所 東京女子医科大学中央校舎学会室

議題 東女医大誌46巻12号編集 論文8編・付録の第46巻総目次、人名索引は目下準備中。  
評議員会準備

## ○例会(第206回)

日時 昭和51年10月22日(金) 午後1時10分より

場所 東京女子医科大学本部講堂

演題 14題

## 編集後記

夏らしい日は教えるほどの、凌ぎやすかつた夏も過ぎ、足早やに秋が訪れてまいりましたが、果して、北国は冷害に見舞われ、自殺者まで出てしまつたとか。手植えの稲は成績がよく、機械植えに被害が多いと聞きおよびます。機械の便利さもさることながら、手づくりの優れた点を改めて認識しなければならないことを教えているように思われます。まして、人間は機械ではない、血の通つた病人への血の通つた温い手づくりの医療が失われつつあるような気がしてならない昨今である。

本号は、今日、癌の治療、診断に大きな期待の寄せられている腫瘍免疫についての綜説のほか6篇、原著、臨床報告、症例検討会に、46巻の総索引を添えて盛沢山の内容を編集することができました。

今や秋の学会シーズン、折角の発表を原稿にかえてご投稿下さい。

本誌のお手許に届く頃は、ジングルベルの音が街に流れ、年の瀬のあわただしい頃かと存じます。折角の御自愛とご健闘を祈ります。

51, 10, 18. (R.U.)

## 訂 正

本誌第46巻第9号782頁の表題

“窒息時における副腎皮質ホルモンの動態(1)

——器械的窒息時における血漿コルチゾールの変動——

について、副題および第783頁右側7段目の器械的窒息を機械的に訂正します。

著者 猪熊 テイ